

要介護高齢者の食を支える口腔ケア推進のための北九州市の取り組み 第3報

松本恵美^{1,2)} 白木裕子^{1,3)} 川崎節子^{1,4)} 加賀美由旗^{1,5)}

NPO 法人ケアマネット21¹⁾ 小倉医師会ケアプランセンター²⁾ 榊フジケア³⁾ ケアプランハッピーハウス⁴⁾ 恵友会ケアプランステーション⁵⁾

北九州市では平成24年度から「要介護高齢者の食を支える口腔ケア対策事業」が始まり、ケアマネジャーが口腔ケアの意義や重要性の理解を深め、かかりつけ歯科医や歯科医療機関との連携が促進されるよう様々な取り組みを行っている。今回、ケアマネジャーを対象に行ったアンケート調査の結果、9割が口腔機能アセスメントに自信がないと回答し、基本職種による有意差が認められた。確認方法も本人や家族からの聞き取りのみで行っていることが明らかとなった。今後は口腔機能アセスメントの理解を深め、ひとつでも問題が明らかになった場合は、かかりつけ歯科医や各区の歯科医師会の相談窓口へつなぎ、早期に対応することが求められる。

I 研究目的

要介護高齢者のケアマネジメントにおける口腔ケアや訪問歯科診療の実態を調査し、今後の歯科と介護の連携促進、口腔ケアの普及・促進を図る上での課題を明らかにする。

II 研究方法

北九州市の指定居宅介護支援事業所に勤務するケアマネジャー563名を対象に郵送にて調査票を配布し、278名より回答を得た。(回収率49%)
口腔アセスメントに関する質問は「歯と口の状態や食べ方確認の有無」「確認方法」「確認部分」「確認しない理由」「口腔機能アセスメントにおける自信の有無」であり、ケアマネジャーの基礎職種、実務経験年数、事業所の所在地域により χ^2 検定を行った。

III 研究結果

歯と口の状態や食べ方の確認は「ある」が95.3%で、確認方法は「本人からの聞き取り」69.4%「家族からの聞き取り」19.6%で聞き取りによる確認が89%を占めた。複数回答による確認部分は「義歯の状態」82.2%「食事時のむせの有無」82.9%「歯の状態」72.9%の順に多く「舌の状態」「開口状態」「歯みがきの回数」は20%以下であった。口腔内の確認をしない一番の理由は「口の中を見せてもらにくい」60.9%であった。口腔機能アセスメントにおける自信の有無は「ある」8.9%「ない」「どちらともいえない」89.6%で、基本職種による有意差が認められた。

IV 考察

ケアマネジャーの口腔機能のアセスメントの現状は、聞き取りによる方法で、食事を安全に咀嚼し、嚥下するための歯や義歯の状態、嚥下状態を中心に確認していることがわかった。そのため、口腔内の

トラブルを予防する視点ではなく、トラブルが起きてからの対応となっているのが現状である。アセスメントに自信がないとおよそ9割が回答したにもかかわらず、歯科医による居宅療養管理指導の必要性を全ての利用者で検討していないという矛盾点も明らかとなった。基本職種では、介護系のケアマネジャーがアセスメントに自信がないが有意に高かったが、医療系のケアマネジャーが正しくアセスメント内容を理解し、実施しているかは明確ではない。今後は、研修会やマニュアルを通じて、アセスメントの知識と実践方法を習得する必要がある。口腔内の確認ができない大きな理由が、口の中を見せてもらにくいことにあるため、利用者本人や家族に対しても口腔ケアの必要性を理解してもらえ、取り組みが必要であり、アセスメントを実施してひとつでも問題が明らかになった場合は、かかりつけ歯科医や各区の歯科医師会の相談窓口へつなぎ、早期に対応することが求められる。